

講演会

「幕末維新时期における 北海道の宗教世界」

講演概要

ペリー再来航による 1854 年（安政元）3 月の箱館開港により幕府の蝦夷地の宗教政策は大きく変化していく。松前城地を除く全蝦夷地が幕府領となり定住化政策が進められ寺院の建立が許可される。箱館はアメリカをはじめイギリス、ロシア、オランダへも開港され、1859 年（安政 6）6 月には通商開港を迎える。日本の開国から明治維新にかけての幕府・明治政府の蝦夷地・北海道の宗教政策の展開をわかりやすく解説します。



東本願寺函館別院



高竜寺

講師：佐々木 馨 氏 北海道教育大学名誉教授 -文学博士-

函館の歴史的風土を守る会会長、五稜郭の文化価値を考える会会長

「函館市史通説編」宗教関係について執筆

著書：日蓮の思想構造、北海道の宗教と信仰、高龍寺史、鎌倉仏教の世界など他多数

日時

2019 年 4 月 20 日（土）14:00～15:45（開場：13:30）

参加料

無料

事前申し込みは必要ありません。

会場

ふらっと Daimon

若松町 16-10 函館駅前ビル 6 階

募集

100 名

当日会場へお越しください。

後援

函館市教育委員会

但し、定員に達しましたら締切ります。